

「グローバル創業都市・福岡」 ビジョン (案)



平成27年3月



目次

第1章 はじめに	1
1 策定の背景	1
2 ビジョンの位置づけと目的	3
3 ビジョンの目標時期.....	3
第2章 グローバル創業都市としての強みと課題.....	4
1 福岡市の強み	4
2 福岡市の課題	8
第3章 福岡市のめざす姿 ～「グローバル創業都市・福岡」の都市像～	10
第4章 都市像の実現に向けた施策(政策パッケージの体系)	11
1 都市像Ⅰ「創業を促し、再チャレンジを応援する仕組みを持つ都市」の実現 に向けて.....	11
2 都市像Ⅱ「ビジネスが世界と容易につながる自由都市」の実現に向けて	16
3 都市像Ⅲ「グローバルビジネスを呼び込む高機能都市」の実現に向けて	19



「グローバル創業都市・福岡」ビジョンの体系

福岡市の強み

- ◆ 創業に適した環境
 - ・ 人口増加率が高く若者率が高い
 - ・ オフィス賃料が安い
 - ・ 交通の便が良い ・ 住みよいまち
 - ・ 成長するアジア市場への好立地
- ◆ 早くから創業に取り組んできた成果
 - ・ 日本の中では高い開業率
 - ・ 若者の起業者が多い

福岡市の課題

- ◆ 豊富な学生の半数が九州以外に流出
- ◆ 九州全体の人口は転出超過
- ◆ 九州の拠点都市として以下の取組みが必要
 - ・ 新たな挑戦を応援する風土の醸成
 - ・ ビジネスを海外につなぐ仕組みづくり
 - ・ グローバル経済都市の機能整備

チャレンジしたい人と企業が集い、新しい価値を生み続ける都市

めざす都市像

- I 創業を促し、再チャレンジを応援する仕組みを持つ都市
- II ビジネスが世界と容易につながる自由都市
- III グローバルビジネスを呼び込む高機能都市

- 戦略 1 チャレンジする人材を育てる
- 戦略 2 創業の生態系をつくる
- 戦略 3 創業の大きな成長モデルをつくる
- 戦略 4 MICE イノベーション創出環境をつくる
- 戦略 5 世界とつながるビジネスを集積する
- 戦略 6 グローバル人材が住みやすい生活環境をつくる
- 戦略 7 世界で活躍する企業や人材をひきつけるビジネス環境をつくる

政策パッケージ

国家戦略特区

産学官民の取組み

第1章 はじめに

1 策定の背景

「アベノミクス」の第三の矢である成長戦略¹では、「産業の新陳代謝とベンチャーの加速」を柱の一つに掲げ、民間の力を最大限に引き出すことを重視し、創業支援を打ち出しています。また、まち・ひと・しごと創生総合戦略²においても、東京一極集中を是正し、地方から日本を創生する道筋として「しごとの創生」による新たな雇用創出を目指し、創業支援が目玉の一つとなっています。

「創業」が重要とされる要素は、主に2つあります。

1つめは、創業により、時代の変化に対応した革新的な商品やサービス（イノベーション³）が生まれることです。新たな付加価値がついた商品やサービスは、人々の生活をより豊かにし、経済を大きく動かしていきます。

創業企業のアイデアを活用してビジネスを広げる

新たに事業を始める創業や既存企業による新事業などの第二創業⁴（以下、これらをまとめて「創業」という。）の多くは、時代を先読みして、新しいアイデアや技術でこれまでにない価値を生み出し、新たなビジネス領域を切り開きます。

これは既存企業にとっても新しい取引、海外展開などのチャンスとなります。例えば創業企業の新しいIT技術を既存企業がビジネスに取り入れるなど、既存企業と創業企業の出会いは、双方のビジネスアイデアを活用した、さらに新しい価値を生み出し、企業の成長につながります。



2つめは、創業により雇用が生まれることです。創業により新たな仕事が生み出され、多くの雇用を創出⁵して地元での就職機会を増やします。また、創業企業の多様な風土や文化は、短時間勤務や在宅勤務など様々な働き方を提供し、ライフスタイルに応じた働き方、新しい生き方を選べるようになり、若者や女性や高齢者など多様な人材が活躍するまちになります。

創業企業と既存企業の双方が成長！

「創業」で生活が豊かに！

「創業」で仕事を創出！

¹ 日本再興戦略：2013年（平成25年）6月14日に「日本再興戦略—JAPAN is BACK—」を閣議決定。2014年（平成26年）6月24日に「日本再興戦略 改訂版2014」を閣議決定

² まち・ひと・しごと創生総合戦略：2014年（平成26年）12月27日に「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及びこれを実現するための「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を閣議決定

³ イノベーション：技術や制度の変革を利用して、新たな発想により、新たな商品やサービス、市場などを開拓すること。

⁴ 第二創業：既存の企業による業態転換や新事業・新分野への進出

⁵ 『中小企業白書 2011年版』によれば、2006年から2009年までの期間の新規開業事業所は全事業所の8.5%に過ぎないが、この新規事業所によって生み出された雇用は、全雇用創出の37.6%に達している。このことから、近年において日本の雇用創出の多くを担っているのは若い企業とされている。

福岡市は、このような創業を早くから支援し、人や企業をしっかりと生み育てる仕組みづくりに取り組んできました。創業による既存ビジネスへの好影響や経済全体の活性化で都市の成長が促され、都市の活力によってさらに生活の質が高まり、市民一人ひとりが豊かさを実感する都市づくりにつながります。

この取組みをさらに加速させるために、2013年（平成25年）9月には、産学官民一体となって福岡都市圏の国際競争力の強化を進める福岡地域戦略推進協議会（以下「FDC」という。）と共に、創業と雇用を生み出す都市として「国家戦略特区」への提案を行いました。

その提案に基づき、福岡市は2014年（平成26年）3月に国家戦略特区に選定され⁶、「福岡市グローバル創業・雇用創出特区」としてさらなる挑戦を始めています。

国の成長戦略に位置づけられた国家戦略特区は、大胆な規制改革等を通じて経済社会の構造改革を重点的に推進することにより、産業の国際競争力の強化及び国際的な経済活動の拠点形成を図るものです。福岡市は、都市圏全体として発展し、九州そして日本の経済をリードし、地方から日本を変える原動力となります。

福岡市が「創業」という旗を掲げて特区の指定を受けたことで、国内はもとより海外からも期待と関心が高まっています。この機運の高まりとともに、産学官民がそれぞれの取組みを推し進めて国内外の人や企業をひきつけ、そこから生じるチャレンジが経済成長につながる仕組みを充実させることが重要です。

国家戦略特区を取組み推進のエンジンとして、福岡市自らが取り組むべきことをこれまで以上に率先して進め、地方の拠点として日本全体、アジアに向かって存在感を高めます。



国家戦略特別区域（全国6地域）

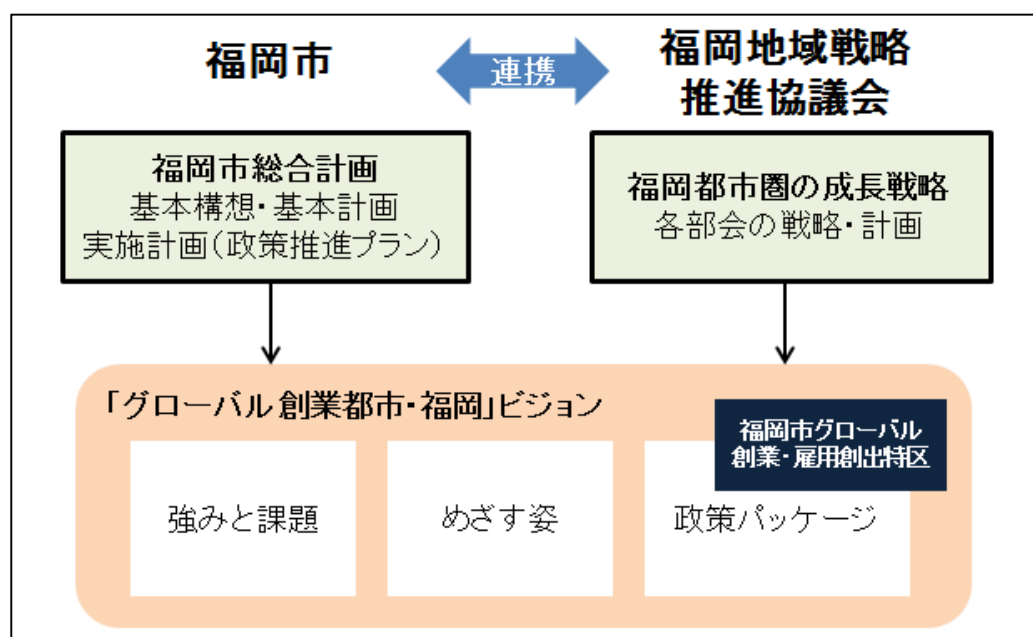
⁶ 平成26年3月28日開催の国家戦略特別区域諮問会議において国家戦略特区として福岡市を含む6地域が示された。その後、国家戦略特別区域法第2条第1項の規定に基づく「国家戦略特別区域を定める政令」（平成26年5月1日施行）において正式に決定された。

2 ビジョンの位置づけと目的

福岡市は、「第9次福岡市基本計画」及び「政策推進プラン」において「スタートアップ都市づくり」、「MICE⁷拠点の形成」を重点分野に位置づけ、経済交流の活性化や人材誘引など、地域経済が新たな価値を生み出すための環境整備にも力を入れ、福岡市の経済活性化、新たな雇用の創出に取り組んでいます。

また、FDCは、2013年度（平成25年度）までの3か年の第1期活動を通じて策定した地域戦略「福岡都市圏の成長戦略」により、福岡の強みを活かして、成長著しいアジアとの交流の活性化により地域経済の成長を図ることとし、都市の産業競争力に直結する経済活動と呼び込む「MICE」を軸に、その基盤となる「人材」や「都市再生」などを柱とする戦略的なプロジェクトに取り組んでいます。MICEについては、単なる経済交流・来訪客誘致として取り組むのではなく、MICEを通じて地域内のイノベーションを創出し、新たなビジネス機会を増やすことを目的としています。

「グローバル創業都市・福岡」ビジョンは、このような「福岡市総合計画」や「福岡都市圏の成長戦略」に基づき、特区を獲得したことを踏まえて「福岡市グローバル創業・雇用創出特区」を都市の成長に向けた推進エンジンとし、創業の面から福岡市の課題やめざす姿、産学官民が取り組む施策（政策パッケージの体系）を示し、産学官民で共有することを目的として、市とFDCとが共同で策定するものです。



「グローバル創業都市・福岡」ビジョンの位置づけ

3 ビジョンの目標時期

めざす都市像の実現に向けた目標時期を2018年度（平成30年度）とします。

⁷ MICE（マイス）：多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。企業などの会議（Meeting）、企業などが行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行：企業などが社員に報奨として与える旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会などが行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字をとったもの。

第2章 グローバル創業都市としての強みと課題

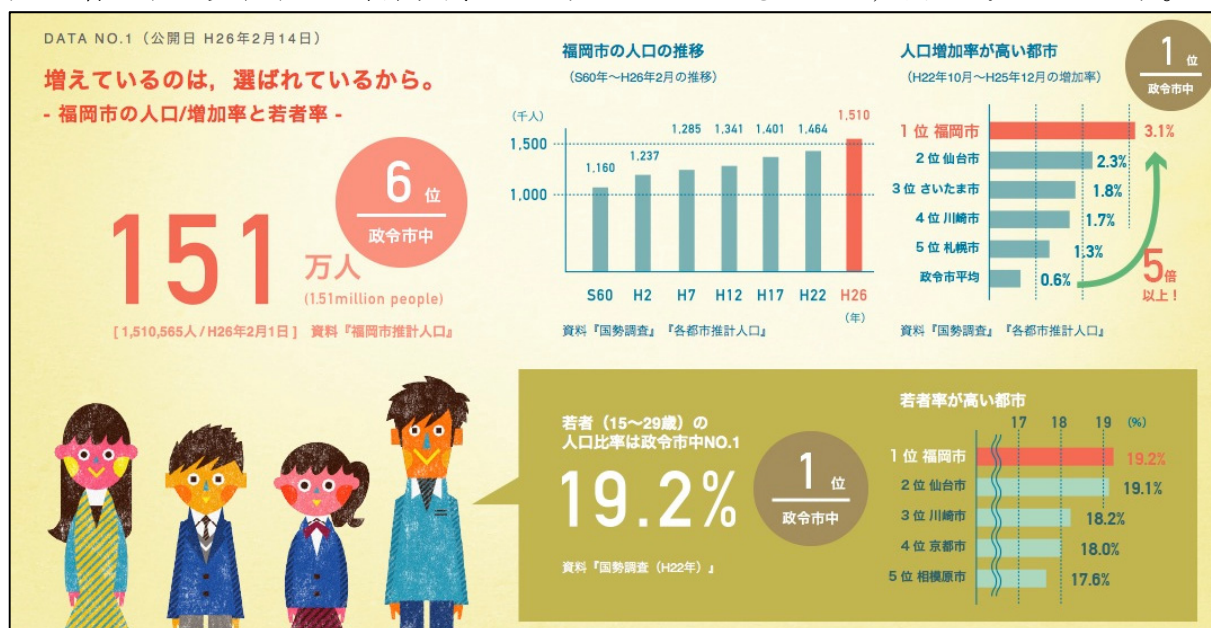
1 福岡市の強み

(1) 創業に適した環境

福岡市は創業に適したいくつもの要素を持っています。

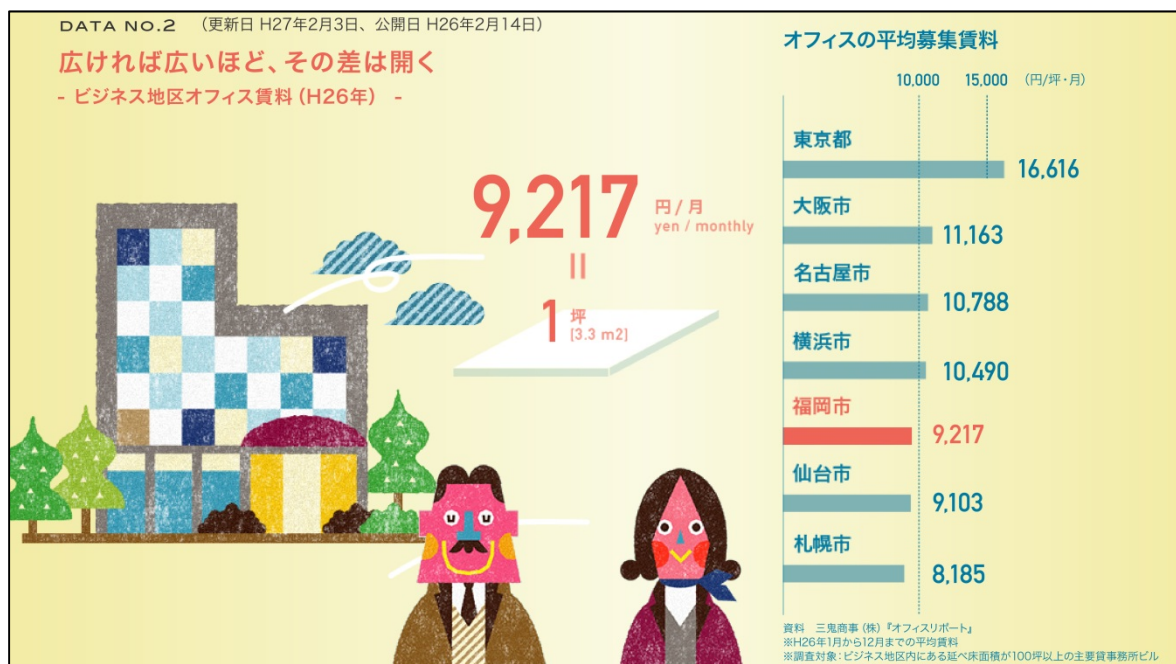
ビジネス環境の面から見ると、イノベーションの源泉である先端学術研究や成長産業が集積するとともに、優秀な人材を輩出する大学があります。留学生や理工系学生など豊かな人材を有し、若者比率が高いのが特徴です。

日本全体が少子高齢化という人口減少社会へ向かう中であって、福岡市の人口は150万人を超え、2035年（平成47年）頃まで約20年の間増加を続ける見込みです。人口増加率は政令市で一番高く、ビジネスにおいても大きな魅力と考えられます。



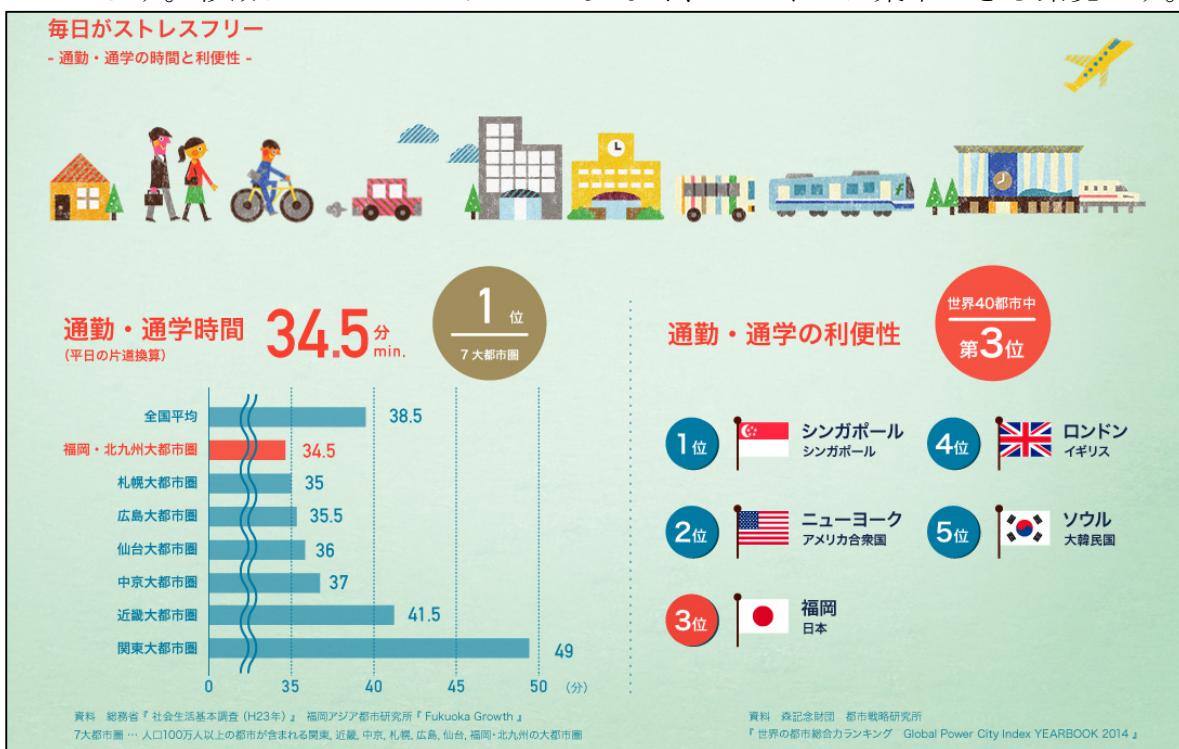
創業環境：人口増加率が高く若者率が高い

また、東京や大阪などと比べてオフィス賃料が低廉であるなど、ビジネスコストに関しても優位性を持っています。



創業環境：オフィス賃料が安い

さらに、通勤・通学に要する時間の短さは7大都市圏中⁸1位であり、世界的にも際立っています。移動についてのストレスが少なく、ビジネスに集中できる環境です。



創業環境：通勤・通学の便がよい

コンパクトで豊かな自然に囲まれている福岡市は、長い歴史により作られた豊かな文化を有し、食・住・遊が近接した暮らしやすいまちです。交通の便が良く、食にも恵まれ、世界でもトップレベルの生活の質を保持しています。そのため、国内外のビジネスマンや雑誌などから住みやすい都市、働いてみたい都市として選ばれている実績もあります。

米国のシアトルやサンフランシスコをはじめとして、このような環境下にある都市では、人々からクリエイティブで革新的な発想が生まれやすいと言われていています。⁹

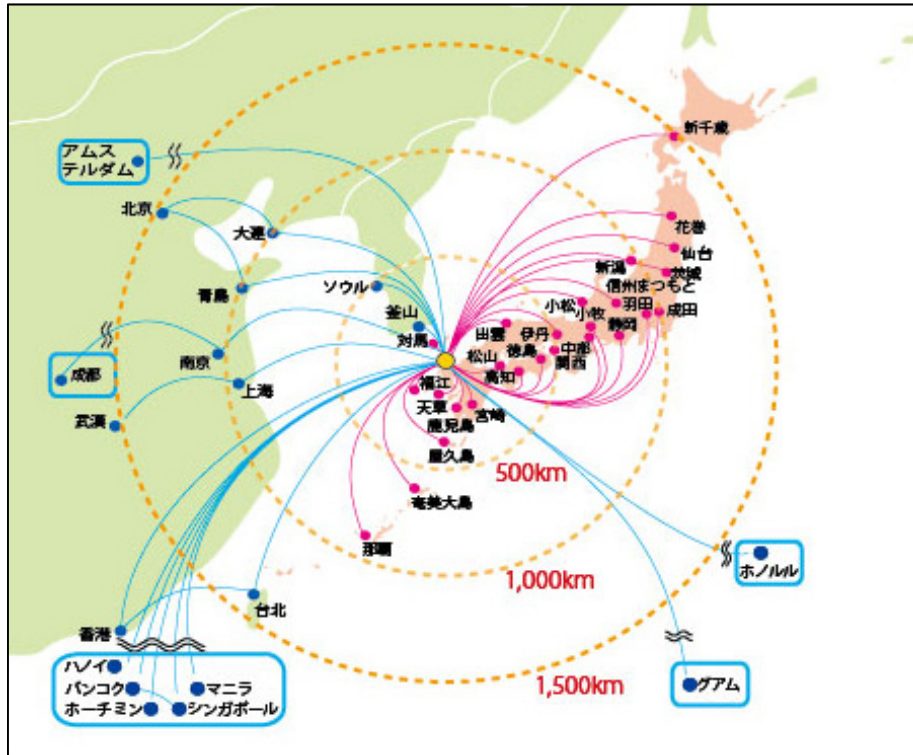


創業環境：住みよいまち

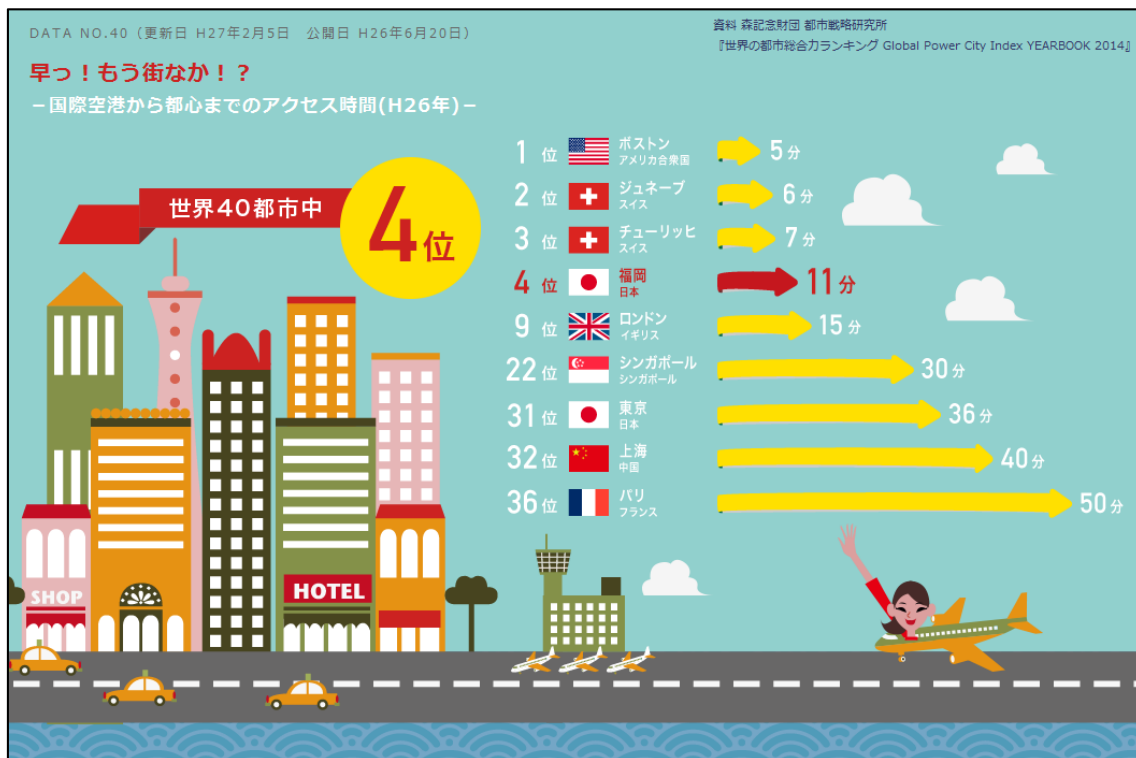
⁸ 7大都市圏：人口100万人以上の都市を含む関東、近畿、中京、札幌、広島、仙台、北九州・福岡の大都市圏

⁹ 経済学者・社会学者であるトロント大学経営大学院教授リチャード・フロリダ氏著『クリエイティブ資本論』によると、豊かなライフスタイルを楽しめる洗練された都会、多様性を受け入れる公平な社会、雇用機会に恵まれた経済環境など、都市の生活の質がクリエイティブな人材を誘引する重要な条件であるとされている。

海外から高度人材や企業が日本への進出・創業を考えた場合に、福岡市は、東京や大阪などに比べオフィス賃料などのビジネスコストが低い、世界的に住みよい街として高い評価を受けている、成長著しいアジア市場との歴史的・地理的近接性や交通アクセスの良さといった点から、日本全国の中でも群を抜いてポテンシャルの高い都市と言えます。



福岡空港に就航している国内外路線（2015年2月現在）

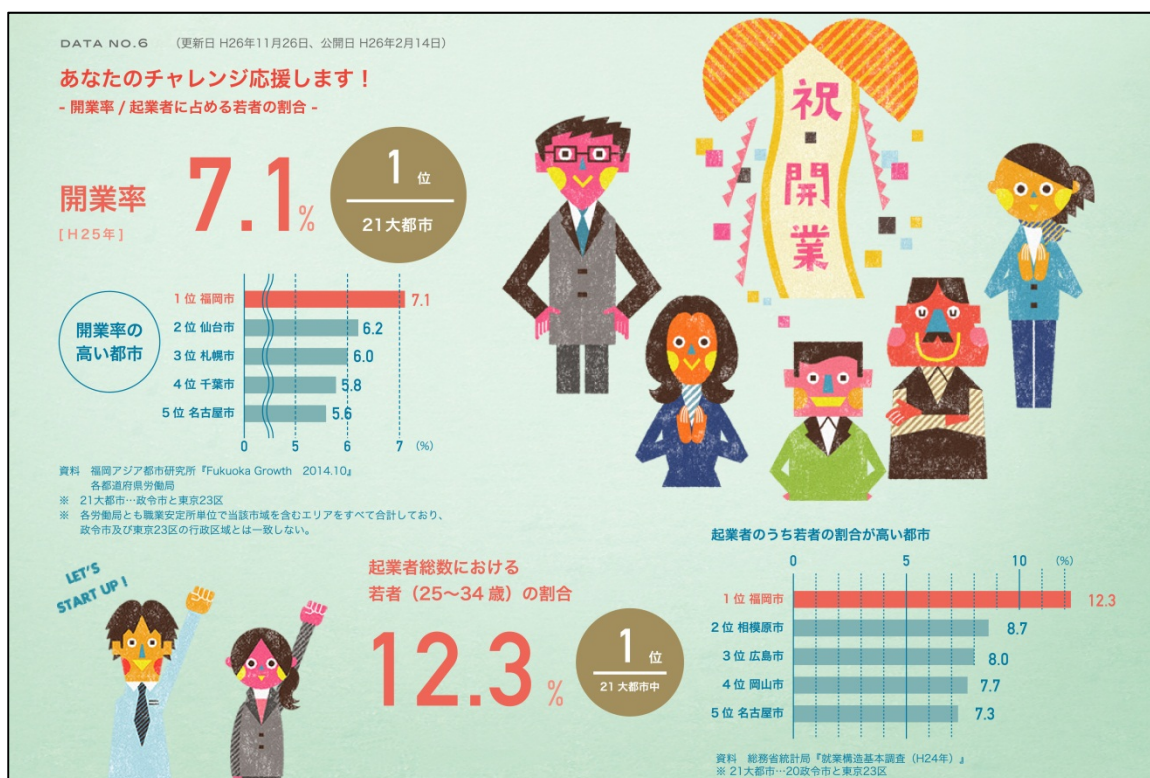


創業環境：国際空港へのアクセスがよい

(2)早くから創業支援に取り組んできた成果

福岡市の人や企業を集める魅力には、クリエイティブな環境、立地の優位性、創業に適した人材の集積などの要素だけでなく、古くから商人のまちとして様々な人々を受け入れてきた歴史や祭り好きで他人をもてなしたい市民の気質も関係しています。開放的で寛容な風土は、様々なチャレンジを応援する素地につながっていると考えられます。

福岡市では、独創的なアイデアまたは技術をもとに新しい製品やサービスを生み出そうとする起業家を育成するため、2000年（平成12年）に福岡市起業家育成施設（インキュベーター施設）を開設し、本格的な創業支援を始めました。2003年（平成15年）には、福岡市で創業した先輩経営者や専門家等による「福岡市起業家応援団」が組織され、起業家を様々な角度から支援する取組みも開始されました。これらの取組みの後押しもあり、全国でも開業率の高い都市としての実績を上げています。



創業の実態：開業率が高く、若者の起業家が多い

2012年（平成24年）には、「スタートアップ都市ふくおか宣言」を行う一方、2013年（平成25年）には、創業支援に積極的に取り組む都市との間で「スタートアップ都市推進協議会」を設立するなど、日本全体の創業の拠点を目指した取組みを始めています。また、国や県の創業支援の取組みや大学における知的財産の活用、民間による創業を応援する取組みも増えてきています。

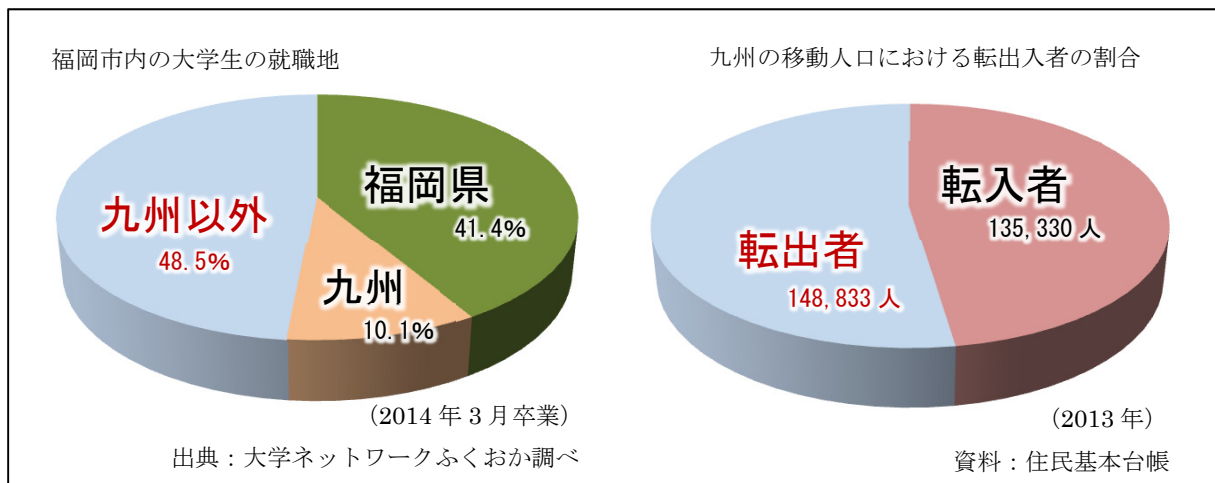
このように、福岡市は創業環境の優位性を持つとともに、産学官民の様々な支援のネットワーク、行政によるインキュベーター施設、融資制度など創業を支援する環境が一定程度整っています。

2 福岡市の課題

前述のように福岡市は人材に恵まれ、人口増加が続き、学生が多く若者のまち、元気なまちと言われていますが、地元の豊富な学生の約半数は就職時に九州以外の東京圏など大都市へ流出しているという課題を抱えています。

また、九州全体の人口は転出超過にあり、福岡市は九州のビジネス拠点として、また特区を獲得した都市として、福岡市の成長を九州全体の成長につなげ、地方から日本を変えることが重要です。

福岡市は創業を促進しさらなる雇用を生み出すとともに、創業企業と既存企業のマッチングなどにより双方の成長を図ることで九州全体を豊かにし、日本経済全体の活性化を実現していくことが必要です。



(1) 新たな挑戦を応援する風土の醸成

福岡市の開業率は国内の主要大都市中1位ですが、日本全体の開業率は米英と比べ低いのが実情です。創業への意欲の低さとともに、事業失敗についての経営者個人の責任の重さ、再チャレンジの難しさなども創業へのハードルとなっています。日本においては就職先として大企業を志向する人が多いと言われ、失敗が容認されにくい環境もあって、創業を志す人材が不足しています。

新たな価値を創造する都市となるためには、人材を育て、創業や社会実験、ソーシャルビジネス¹⁰、新たなプロジェクトなど、様々な分野でチャレンジする人や企業を国内外から福岡市に呼び込み、先鋭的な取組みを支援し定着を図ることが必要です。

→都市像Ⅰ

(2) ビジネスを海外につなぐ仕組みづくり

全国的に人口減少局面を迎え、国内市場の拡大が見込みにくい中、地場企業が将来的にも成長を続けるためには、新たな市場を求めていく必要があります。市場として成長著しいアジアなどの海外市場は魅力的であり、海外にビジネスを展開させていくことが重要です。しかしながら、地場企業が海外へ事業拡大を図る場合のネットワークは十分ではないのが実情です。そのため、地場企業と海外企業との商談機会を増やし、海外の企業や人材の福岡への誘致、地場企業の海外展開の支援を進めることが必要です。

¹⁰ ソーシャルビジネス：地域社会において顕在化しつつある多種多様な社会課題（環境保護、高齢者・障がい者の介護・福祉、子育て支援、まちづくり、観光等）の解決に向けて、住民、NPO、企業など、様々な主体が協力しながらビジネスの手法を活用して取り組む活動

また、海外ネットワークを形成する手段の一つとして、MICEがあります。福岡市は国際会議件数が東京に次いで国内2位ですが、国際的には日本のMICE誘致力は低下しています。MICEには、開催による経済効果のほか、MICEを通じた国や都市のブランド力強化による競争力の向上など、多くの意義があります。中でも、福岡に多様な人材が集積し、交流することにより、新たなビジネス機会やイノベーションが生まれるなどの効果が期待されます。こうしたことから、MICE誘致により国際競争力を強化するとともに、MICEを創業支援に活用することが重要です。

→都市像Ⅱ

(3) グローバル経済都市の機能整備

新たな価値の創出が必要とされる現代では、個々人が有する創造性あふれる感性やアイデアが重要であり、創造性に富んだ文化や産業を有し、多様な人材が集まり、活発な交流が行われる都市づくりが求められています。特に、福岡都市圏全体として発展し、九州そして日本の経済をけん引していくためには、福岡市都心部の機能を磨き続けていくことが大切です。加えて、グローバル創業都市を目指すにあたっては、外国人創業者などのグローバル人材やその家族なども暮らしやすいまちであることが重要であり、教育や医療、情報アクセスなどの環境づくりが必要です。

また、アジアとの物流網の充実、新規航空路線の就航などにより、人の移動や経済活動が活発化することが見込まれます。国内外の人流・物流の増加に対応するとともに、国際競争力をさらに高めるため、港湾・空港機能の一層の強化が必要です。

→都市像Ⅲ

第3章 福岡市のめざす姿 ～「グローバル創業都市・福岡」の都市像～

福岡市の目指す「グローバル創業都市」とは、人と環境と都市活力が調和のとれた住みよい環境を生かして、**国内外からチャレンジしたい人と企業が集い**、地元の人や企業も含めた活発な交流により、革新的な発想が次々と生まれ、**新しい価値を生み続ける都市**です。このような都市では、盛んな創業から多くの雇用が生まれ、**多様な人材がいきいきと輝いています**。

具体的には次の3つの都市像をイメージしています。

都市像Ⅰ：創業を促し、再チャレンジを応援する仕組みを持つ都市

チャレンジを促し、失敗してもその価値を評価する風土が醸成されて、周囲が再チャレンジを積極的に応援する仕組みがあります。

具体的には、創業を志す人が新しいビジネスを立ち上げて成長するまでの過程を、創業経験者のネットワークや資金提供者など様々な主体が、創業段階に応じてきめ細やかに支援します。

創業を支援するこのような人々の輪（応援コミュニティ）が厚みを増し、連携して様々な場面で創業を応援することにより創業が生まれ続け、失敗してもコミュニティの中で再チャレンジできる仕組み（エコシステム¹¹）があります。

都市像Ⅱ：ビジネスが世界と容易につながる自由都市

福岡に来れば、様々な事業がすぐにグローバル市場につながり、誰でも容易に世界でチャレンジできるような、交流・交易ができる環境が整っています。

地元企業が世界で活躍するとともに、国内外から企業が集まり、新たなビジネスやイノベーションが生まれ、創業都市として福岡市の存在感が高まっています。

都市像Ⅲ：グローバルビジネスを呼び込む高機能都市

世界で活躍する企業やグローバル人材をひきつける高度で創造的なビジネス環境が整っています。また、グローバル人材にとっても働きやすく暮らしやすい環境の中でその能力が存分に発揮され、それが地域経済の活性化につながっています。

【目標】

本ビジョンにおいて「グローバル創業都市・福岡」の都市像を実現する目標時期である2018年度（平成30年度）の目標値を設定します。

開業率等について、数値目標の現状値と目標値を以下に示します。

目標項目	初期値 2012年度 (平成24年度)	目標値 2018年度 (平成30年度)
福岡市における開業率 (参考:福岡市における廃業率)	6.2% (4.0%)	13.0% (初期値の2倍程度)
就業機会の多さに対する満足度	33.3%	44.0%

※雇用保険事業統計に基づき、初期値と目標値の開業率を踏まえ、試算すると約7万人の雇用増が見込まれる。

¹¹「エコシステム」とは本来、生物とその環境の構成要素を1つのシステムとしてとらえる「生態系」を意味する科学用語であるが、ここでは複数の企業・人材が創業や事業活動などで連携することで、互いのアイデア、ノウハウ、技術や資本を生かしながら、業界の枠や国境を超えて広く共存共栄していく仕組みを指す。

第4章 都市像の実現に向けた施策（政策パッケージの体系）

都市像の実現に向けた主な施策を体系的に整理しまとめています。各戦略の方向性を踏まえ、新たに必要となる施策があれば今後とも取り組んでいきます。

都市像 I 「創業を促し、再チャレンジを応援する仕組みを持つ都市」の実現に向けて

戦略1 チャレンジする人材を育てる

子どもたちが職業観を育む中で、創業への関心を高める取組みや海外で学ぶ機会などを提供し、チャレンジマインドを高め、福岡から新しいアイデアで創業を担う人材を育てます。また、幅広い人材に創業の意義や楽しさを知ってもらうことで創業の裾野を広げます。

◆チャレンジの芽を育てる

市立小中学校でチャレンジマインドを育てる起業家等による社会人講話を行い、「立志」に関する図書コーナーを設けます。また、産業界や大学等と連携し、インターンシップを活用した大学生とベンチャー企業との交流に取り組むほか、様々な場で創業者とふれあう機会を提供するなどして、創造性を高めチャレンジマインドを育てます。

◆創業への関心を高める

ライフステージに応じた働き方の一つとして、女性の創業への関心を高め、本格的な創業につながるようステップアップを支援します。

また、シニアの創業支援を通じて元気な高齢者が活躍できる生涯現役社会づくりを進めます。

多様な人材がいきいきと働く中で、幅広い層に創業の意義や楽しさを発信し、創業の裾野を広げます。

◆チャレンジの場をつくる

「大学ネットワークふくおか」の「ビジネスチャレンジ事業」をはじめ、産学官民で様々なワークショップ、ビジネスアイデアのコンテスト等を開催し、広くチャレンジしたい人々を集め、共にアイデアを実現する仲間づくりを支援します。

◆グローバルな活躍を応援する

小中高連携推進モデル地区を設置し、連携専任の英語教員の配置や遠隔授業を行うなど英語教育の充実を図ります。

また、国際交流活動などを通じ、グローバルな視野や国際感覚の醸成によりグローバル人材を育てます。

福岡商工会議所・市内の大学と連携し「スタートアップ奨学金制度」により、チャレンジ精神あふれる大学生に海外で学ぶ機会を提供し、その経験が地元での創業や就職につながるよう支援します。

戦略2 創業の生態系をつくる

(創業応援コミュニティ形成・創業段階に応じたサポート機能充実)

創業者や創業応援者の交流拠点として福岡市が設置した「スタートアップカフェ」を核として、創業を応援するコミュニティの形成やその活動を支援し、創業支援策の多様化・充実を図ります。創業の成長段階に応じた支援と再チャレンジを支援する仕組みにより、創業の生態系をつくります。

創業を大きく分けて3つの成長段階で支援します。

創業検討期には、創業に関心がある人々が集い、新しいアイデアが生まれ創業へ向かうこと、**立ち上げ期**においては、創業に必要な手続きや人材、資金等をスムーズに整え、事業を軌道に乗せることを支援します。

成長期には、企業が成長する機会を提供することに重点を置き、税制による資金面での負担軽減や販路開拓支援、グローバルなチャレンジを応援すること等により更なる成長を促進します。

◆創業者の多様なニーズに応える(ワンストップ支援・専門家によるサポート)

スタートアップカフェにおいて、創業手続きに関する相談や煩雑と言われている諸手続きについて、専門家や機関との連携をスムーズにし、支援のワンストップ化を進めます。

また、インキュベーション施設を中心に、創業者のニーズや成長段階に応じて、専門家（インキュベーションマネージャーなど）による適切な支援が受けられる環境を充実させます。

◆オフィスを構えやすくする

創業者に低廉な賃料で事務所を提供するとともに、専門家による経営指導・相談等により創業者の成長を支援するインキュベーション事業を、「インキュベーションプラザ博多」、「インキュベーションプラザ百道浜」、産学官による「福岡ビジネス創造センター」で実施します。

また、民間のインキュベーション施設との連携等により、創業者が広く利用しやすい環境を整えていきます。

さらに、市内の空き店舗（賃貸物件）を活用した創業者支援として、WEB サイト「あ・きてん福岡」により、空き店舗や商店街の情報提供、マッチング支援を行います。

◆資金を支援する

「スタートアップ資金」「ステップアップ資金」などの融資制度により、立ち上げ期、成長期の資金調達を支援するとともに、国の「創業補助金」や産業競争力強化法に基づく登録免許税の軽減措置などの支援制度等を活用します。

創業初期段階を対象に投資を行い、併せてその成長を促進するような民間事業が東京に集中している現状を踏まえ、民間ファンドと連携して、成長性の高い創業初期の企業の発掘と成長支援に取り組むほか、少額の資金調達を容易にする仕組みとしてクラウドファンディングの活用等を推進します。

また、創業時の生活を支える仕組みとして、雇用保険における創業準備期間の失業給付など国の制度を活用し、創業時の資金負担を軽減します。

◆人材確保を支援する

スタートアップカフェを拠点として創業に関心がある人々が出会う機会を増やすとともに、創業企業の人材確保を支援し、雇用機会を増やすためコーディネータによる人材マッチングを行います。また、国家戦略特区により、スタートアップカフェに併設された国の「雇用労働相談センター」において、新規開業直後の企業やグローバル企業などに対し、雇用ルールの周知

徹底と紛争の未然防止を図るための「雇用指針」等を活用して、弁護士等が高度な個別相談対応等を行います。

さらに、インターンシップによる地元企業と学生とのマッチングを盛んにし、優秀な学生の福岡への定着を進めると共に、首都圏等から福岡へ創業人材を呼び込むUIターンを促進します。

◆多様な人材の創業を支援する

女性や高齢者のための専門セミナーや相談イベントを実施するほか、様々な創業希望者が交流しやすく安心して創業できる環境をつくります。

スタートアップカフェに英語で相談対応ができる人材を配置し、法人設立の手続きを支援するなど相談対応を行うほか、外国人の生活相談等を行う「レインボープラザ」と連携し、外国人の創業を支援します。

◆再チャレンジを応援する

スタートアップカフェにおいて、再チャレンジを志す人々が次のステージへ向うための相談・情報提供等を行うとともに、必要な知識習得や取組みを後押しするためのセミナー等を開催します。

◆創業等を支援する税制の実現を図る

平成27年度税制改正において、福岡市の提案等により、国家戦略特区において実現することとなった「エンジェル税制の適用要件の緩和」について積極的に広報等を行い同制度の活用を促進するとともに、創業・対日投資を促進する観点から、国家戦略特区におけるスタートアップ法人減税（スタートアップに着目した法人実効税率の引下げ）の実現を目指します。

◆創業企業の販路拡大を支援する

創業企業を含めた地場中小企業が開発した優れた新製品やサービスを福岡市が認定し、積極的なPR、出展支援等を行う「トライアル発注認定事業」や優れた創業者を表彰する機会など、創業企業の認知度向上や信用力向上による販路拡大により、創業企業の経営の早期安定化を図ります。

また、既存の中小企業とのマッチングの促進に取り組むとともに、展示会や商談会などの機会を積極的に活用し、創業企業の販路拡大を支援します。

◆地域や公的機関の連携を強化する（地域における創業支援を充実させる）

福岡市では地元先輩経営者等による「福岡市創業者応援団」や在京ベンチャー等も巻き込んだ「スタートアップ・サポーターズ」、産学官連携による「フクオカベンチャーマーケット協会」「クリエイティブ・ラボ・フクオカ」をはじめとした創業支援組織がありますが、新たな民間の創業支援ネットワークも市内各所で続々と生まれています。このような取組みを活用し、効率的な分業により支援機能の効果の最大化を図ります。

「スタートアップ応援ネットワーク FUKUOKA」として地域の公的機関等の支援組織が情報の共有化やワンストップ支援体制づくりを進めています。

また、産業競争力強化法に基づく福岡市の「創業支援事業計画」を推進し、市内の様々な創業支援に係る組織とそれらが育む創業コミュニティの連携を強化するとともに、創業者や創業希望者等が支援を受けられる仕組みをつくります。

◆創業者を応援する輪を広げる

「スタートアップカフェ」を活用し、既存コミュニティの活動や新たなコミュニティの芽生え、また、それぞれのコミュニティが有機的に繋がることを促進し、支援者の輪を広げ、創業

の機運を高めます。

「トライアル発注認定事業」や優れた起業者を表彰する機会など、創業企業の認知度を高めたり、クラウドファンディングを通じた少額出資など、創業支援の裾野を広げ、誰もが支援に参加しやすい仕組みを応援します。

出前講座や民間主催のイベント等、様々な機会を活用し、市民全体に創業の意義を伝えるとともに、優秀な起業者の表彰や創業企業を応援するしくみを通じ、市全体で創業企業やチャレンジする人を見守り支援する風土を醸成します。

◆イノベーションを促進する（アイデアを実現する）（事業化・新ビジネス創出）

アイデアを実現する仲間を集めやすくするため、スタートアップカフェなどで交流を深める各種交流会を行い、事業化への支援を行います。

また、イノベーションを誘発し新規ビジネス創出につなげていくため、FDC が主催する、福岡の多様な人材と企業が共に新たな製品やサービスを生み出しスタートアップにつなげていくプロジェクト「イノベーションスタジオ福岡」を支援します。

大学等の技術及び人材を活用した研究開発や大学発ベンチャーの創出を促進するとともに、市の施設等を民間の実証実験の場に提供するなど、新技術の実用化・事業化を支援します。

また、ICT 技術と様々な分野を結びつけ新しい価値を生み出す取組みを推進するため、ICT を活用したものづくり（IoT：Internet of Things）の機会の提供や試作品づくり・実証実験への支援を行います。

戦略3 創業の大きな成長モデルをつくる

創業企業が大きく育つことにより地域経済への貢献が高まり好循環が生まれます。既存企業と創業企業が連携した双方のビジネスの成長や創業企業のグローバル展開を支援し、大きな成功モデルの創出を目指します。また、福岡市に優位性があり、成長が見込まれる産業分野のコミュニティ形成やそれぞれの産業に適した支援策に取り組み、成長企業を育みます。

◆既存企業と創業企業の連携による成長モデルをつくる

「フクオカベンチャーマーケット協会」をはじめとした専門コーディネータにより地元企業のマッチングニーズを発掘し、コーディネータの持つネットワークの活用や関係機関との連携を図りながら、既存企業と創業企業の技術やサービスのマッチングにより新たなイノベーション創出を目指します。

また、既存の中小企業と創業企業とのマッチングイベント「フクオカ・スタートアップ・セレクション」の福岡市内での開催を通じ、新たな技術やアイデアを持つ創業企業とのビジネスマッチングを促進し、既存の中小企業の新たな事業展開や成長・発展につなげます。

◆グローバルな創業企業の成長モデルをつくる

民間との連携により海外の企業や投資家と創業企業等のマッチングの機会を設け、グローバルにチャレンジする意識を高め、福岡発のビジネスの世界展開を支援し、グローバルベンチャーの創出を目指します。また、国内外の創業企業が競う英語によるビジネスプラン・コンテスト「フクオカ・グローバルベンチャー・アワーズ」を開催し、福岡市にグローバルな創業人材を集め、新たなビジネスの創出や海外ベンチャー企業と地場企業との交流などによりグローバルネットワークを構築し、その定着を図ります。

◆強みを活かした産業から成長モデルをつくる

新たな市場を生み出し大きな成長が期待される産業、また他の産業への波及効果が高く福岡市と親和性の高い産業を振興し、さらなる成長機会を生み出します。

国の「クールジャパン」政策などと併せ、コンテンツなどのクリエイティブ関連産業¹²について、さらなる産業集積を図るとともに、海外との「MOU（覚書）」を活用するなど都市のブランディングを推進します。

また、福岡市の魅力ある農水畜産物の活用や大規模商談会「フードエキスポ九州」の開催など食関連産業¹³、ヘルスケア関連産業¹⁴の振興に力を入れます。

新しいビジネスの出現が待望されている環境・エネルギー産業¹⁵においては産学官連携を推進し、「水素リーダー都市プロジェクト」やFDCのスマートエネルギー事業の創出に向けた取り組みなど実証実験を盛んにし、新たな可能性を持つ企業を呼び込みます。

福岡市が先進的に取り組んでいる、有機エレクトロニクスやロボットなどの研究開発を支援し、次世代の産業を育みます。

¹² クリエイティブ関連産業：建築、コンピューターソフト・サービス、映像・音楽、広告、デザイン業などからなる産業群（経済産業省の定義に基づく）

¹³ 食関連産業：一次産品を作る農林水産業から、農林水産品の加工、物流、流通、飲食サービス、また、これら事業活動をサポートする機器、設備、サービスなど食に関わる幅広い産業を指す。

¹⁴ MOU：〇〇。

¹⁵ 環境・エネルギー産業：環境の維持、改善や保護に資する産業と化石燃料・非化石燃料を含むエネルギーに関わる産業の総称

戦略4 MICE イノベーション創出環境をつくる

MICE 開催地としての福岡市の魅力を高め、ビジネスイベントなどを増やすとともに、そこに集まる海外からの企業や人材と地元の企業等が出会い・交流することを通じて、新たなビジネスやイノベーションを創出します。

◆福岡市ならではのおもてなしをする

MICE 開催都市としての福岡市の魅力を高めるため、施設や街中での受入環境を充実させます。

国家戦略特区による、エリアマネジメントに係る道路法の特例「国家戦略道路占用事業」を活用し、公道や屋外空間での賑わい創出のためのイベントや、歴史的建築物などをパーティー会場に活用するなどといったユニークベニュー¹⁶の開発を進めます。

◆アジア有数の MICE クラスタを整備する

国により 2013 年（平成 25 年）6 月に国に「グローバル MICE 戦略推進都市」に選ばれた福岡市は、福岡国際会議場をはじめとするコンベンション施設が集積しているウォーターフロント地区（中央ふ頭・博多ふ頭）において、第 2 期展示場等の整備やホテル・賑わい施設等の誘致により、MICE 機能を強化し、国内を代表するコンベンション拠点を形成します。

◆MICE 来訪者の出入国手続きの迅速化・円滑化を図る

MICE 参加者等の外国人旅行者の利便性を高めるため、福岡空港におけるファーストレーンの設置など、手続きの迅速化・円滑化を目指します。

◆MICE 誘致活動を強化する

MICE に関する専門組織「Meeting Place Fukuoka」により、効果的な営業・プロモーションや開催者へのワンストップ支援など、MICE 誘致活動を強化します。

ICCA（国際会議協会）のネットワークや収集・発信される国際会議等の情報を活用するとともに、世界有数の MICE 見本市に出展し、世界の MICE 関係者が一同に会する機会をとらえ福岡市を PR し、商談の機会を増やします。

さらに MICE の効果を都市圏に拡大させるため、FDC と共に、都市圏一体となったスピード感・柔軟性をもつ MICE 受入体制を構築し、MICE 施設の情報共有や各市町の魅力を活用した都市圏範囲のユニークベニューの企画開発、共同プロモーション等に取り組みます。

◆人材を育成し、地域で MICE を担う

大学や専門学校と連携した専門人材の育成を図るとともに、施設や街中でのおもてなし充実のために、MICE 関連産業従事者の対応力向上や市民ボランティア活動の充実、言語教育等を強化します。

◆MICE でのビジネスマッチングを進める

見本市・展示会等の MICE 開催機会を活発なビジネス交流につなげるため、産業界と連携し、ビジネスチャンスとしての MICE の活用を提案し、商談機能を充実させるなど開催者・参加者の双方の取組みによりビジネスマッチングを推進します。

MICE を通じたイノベーション創出につなげるとともに、福岡市で開催される MICE の魅力と価値を高め、競争力を強化します。

¹⁶ 特別な（ユニーク）会場（ベニュー）を意味する英語。歴史的建造物などで、会議や歓迎会などを開くことで、地域の特性や個性的な雰囲気を演出できる会場のこと。

戦略5 世界とつながるビジネスを集積する

外国企業とグローバル人材の福岡進出、地場企業の海外事業活動に重点をおいて取り組み、海外とのネットワークの強化など、グローバルにビジネスを行う環境の進展を図ります。海外との盛んな交流により新たなビジネスを海外市場に容易に展開でき、新たなビジネスが生まれる環境を整えます。

◆外国企業を支援する

「福岡市立地交付金制度」などの支援制度の活用や法人減税などを活用しながら福岡への進出の条件を整え、また「福岡市外国企業・投資誘致センター」の運営、福岡市企業進出支援サイト「Asia-biz Fukuoka」による情報発信などにより、外国企業や外国人創業人材の誘致・支援を行います。

外国語での相談対応や「雇用労働相談センター」における日本の雇用ルールの理解促進を支援することにより、新規開業直後の企業や海外からの進出企業などの人材確保を支援します。併せて、スタートアップカフェの人材マッチングにより、企業と人材の交流を促進し、地元での雇用促進につなげます。

◆福岡市への関心を高める

海外主要都市等において、トッププロモーションをはじめとするシティセールス活動を実施し、企業や投資家に向けて福岡市の投資環境をPRします。国や関連機関、FDCの活動をはじめとした産業界等と連携し、戦略的に企業や人材の誘致を行います。

海外にも参加者を広く募るビジネスプランコンテスト「フクオカ・グローバルベンチャー・アワーズ」を開催し、その活動をインターネットで世界に広く発信するなど、海外の創業者から注目されるイベントを実施し、日本での創業への関心を高めます。

◆企業の海外進出の第一歩を応援する

福岡市、福岡商工会議所、福岡貿易会、ジェトロ福岡等により組織する「福岡アジアビジネス支援委員会」などにより、海外市場情報の提供、海外進出を目指す企業向けセミナーや貿易実務講座・語学講座の開催、コンサルティングや情報のワンストップ発信など、海外進出の初期段階に必要な情報やノウハウを提供し、ビジネス支援、人材育成などグローバルなマーケットへのチャレンジを応援します。

◆商談会・展示会を盛んにする

地場企業の商談会・展示会への参加に際し、セミナーやアドバイスにより、海外販路開拓を応援します。また、「フードエキスポ九州」の開催やMICE誘致活動により官民連携で商談会・展示会を呼び込み、地元企業と海外企業との出会いを増やし、新しいビジネスにつなげます。

◆グローバル人材を活用する

世界で活躍できる人材、また出身国と福岡市との橋渡し役ができる人材としての外国人留学生は貴重な存在です。優秀な学生を福岡市に呼び込むための奨学金による経済支援や、大学・外国公館が多い福岡の特徴を活かした、留学生と福岡をさらに繋げるきっかけとするイベント「グローバル コミュニティ FUKUOKA」の開催などを行います。さらに、国家戦略特区を活用した在留資格の見直しにより留学生を活用しやすい環境を整えながら、留学生と地元企業との交流を進め、就職に効果的なインターンシップを行うなど、地域での活用に取り組みます。

◆海外拠点ネットワークを活用する

「福岡市上海事務所」「福岡・釜山経済協力事務所」や関連団体の海外拠点などのネットワーク、また、海外との MOU の活用、姉妹都市等の海外諸都市や在福の在外公館（総領事館・貿易センター）等との連携を強化し、外国企業の誘致や地場企業のビジネスチャンスを広げ海外展開を進めます。

◆国際貢献を通じた海外ネットワークを構築する

福岡市では、これまで培ってきた上下水道技術等のノウハウを活かし、アジアにおける生活基盤整備への寄与など、国際貢献に取り組んでおり、海外からの研修生受入や福岡市から海外への職員派遣など技術的な支援を行っています。このような活動を通じて海外諸都市とのネットワークを深めながら、新たな官民連携の枠組みとして設置した「福岡市国際ビジネス展開プラットフォーム」を活用し、地元企業の PR や海外進出の支援につなげます。

戦略6 グローバル人材が住みやすい生活環境をつくる

グローバルビジネスの担い手を福岡市に呼び込み、福岡でビジネスを進めてもらうために、グローバル人材とその家族も含めた暮らしの利便性、医療環境、教育環境を整えるための規制緩和や機能整備、日常生活に必要な情報提供などの支援を行うなど、誰もが住みやすく活動しやすいまちづくりを進めます。

また、生活習慣などの文化の違いから生じる生活上の無用な行き違いを防ぐため、文化の相互理解の促進に努めます。

◆外国人の暮らしの利便性を高める

日々の生活において日本人のみならず外国人も安心して暮らせるよう、外国人への日本語学習支援事業や多言語による生活情報資料の配布、外国人へのマナーの紹介などに取り組み、外国人にも住みやすく活動しやすい生活環境づくりを進めます。

また、FDC では福岡都市圏の外国人受け入れ環境向上のため、英語を活用できる市民を発掘しネットワーク化していくプログラムを実施します。

◆外国人に向けた医療環境を整える

国家戦略特区による、基準病床数の緩和を行う「国家戦略特別区域高度医療提供事業」や外国医師の招聘により高度医療を充実させるとともに、福岡市と福岡県が共同で「福岡アジア医療サポートセンター」を運営し、外国人からの医療に関する問い合わせ対応や医療機関への通訳派遣などにより、外国人向け医療環境を整えます。

◆国際的な教育環境を整える

子どもの英語教育を進めるとともに、日本語指導が必要な児童生徒が、日本語で学校生活や学習に取り組めるように、日本語指導担当教員の効果的な配置及び日本語指導員の指導時間拡充など、サポート機能を充実させます。

戦略7 世界で活躍する企業や人材をひきつけるビジネス環境をつくる

チャレンジしたい人と企業が集まる都市になるためには、グローバル企業にとっても魅力的で快適な環境を整える必要があります。歴史や文化に恵まれ、コンパクトで豊かな自然に囲まれている福岡市の利点を活かして、特に創造的なビジネス環境を創出するための基盤整備に注力します。

◆高質なICT利用環境を提供する

地下鉄駅などの主要交通拠点や観光拠点において、市民や福岡を訪れる人が無料で利用できる公衆無線LANサービス「Fukuoka City Wi-Fi」の提供エリアを拡大します。

公共施設や大型商業施設などにおける拠点整備を進め、来街者等へのサービスを充実させ、都市の魅力や暮らしの質の向上を図ります。

◆アジアの玄関口にふさわしいアクセス機能を整える

新たな航空路線の運航や増便による国内外のアクセス向上はビジネスに大きなインパクトをもたらします。アジアの玄関口にふさわしい、物流・人流のゲートウェイづくりを進めます。

福岡空港の平行誘導路二重化及び滑走路増設の早期実現に向けた取組みを国や福岡県とともに推進し、航空需要に適切に対応します。また、アジアとの交流拡大に伴う国際旅客の増加やクルーズ船の寄港増加に対応するため、中央ふ頭の整備を推進し、国際旅客ターミナル機能を強化します。

さらに、アイランドシティでは国際コンテナターミナルなどの港湾関連施設の整備を進め、先進的な物流機能やサービスの提供で、国際物流拠点の形成及び世界との貿易・ビジネスの拡大を狙います。

◆エリアをつなぎ回遊性を高める

地下鉄七隈線の延伸など、公共交通による天神・博多地区とウォーターフロント地区の交通アクセスの向上を図るとともに、快適で質の高い回遊空間の創出に向け、魅力的でわかりやすいサインの充実や屋外彫刻の活用など、歩いて楽しい、おもてなしの環境を形成し、集客につなげます。

また、FDCにおいて福岡都市圏から九州圏の「人流・交通流」のデータを集積・活用し、交通・流通・都市開発などの分野において福岡・九州の活性化を支援する取組みのビジネス化を進めます。

◆魅力的なビジネス・生活環境をつくる

多くの来訪者でにぎわう都心部においては、クリエイティブな人材や企業の集積を図るとともに、出会いと交流を促す魅力的な都市空間の創出などにより、創造的な場「クリエイティブ街区」の形成を目指します。福岡市の提案により、国家戦略特区において実現した「航空法高さ制限のエリア単位での特例承認」や福岡市独自の都心部容積率特例制度等を活用しながら、都心部の機能更新のスピードアップと建物低層部のゆとりある空間の確保など、新たな企業進出などを促す魅力あるまちづくりに官民連携で取り組みます。

また、まちづくりの契機や建物の更新時期を捉えて、周辺機能との連携や利便性などを活かしながら、新たな活力・交流を生み出す機能の充実を図ります。

併せて、国家戦略特区による、容積率の緩和を行う「国家戦略住宅整備事業」を活用し、拠点性の高い地域において、職住近接型の高質な住宅等の整備を促進し、人々が働きやすく、創業しやすい生活環境を整えます。

◆スマートシティ¹⁷づくりを推進する

環境・エネルギー、モビリティ、スマートハウス・ビル等様々な分野において、FDC での検討や福岡市スマートコミュニティ創造協議会、九州大学共進化社会システム創成拠点などとの連携を活かし、実証実験から社会実装に至る活動に取り組みます。

また、超高齢社会に備え、ICT を利活用した地域包括ケアシステム¹⁸の構築を進めます。

海外の都市との連携のもと、福岡で開発された技術やサービスの海外展開などを支援していきます。

◆民間投資を呼び込みまちづくりを加速させる

シティーセールスなどの機会を捉えて、世界に向けた企業や投資を呼び込むための情報発信を行い、ネットワーク形成を図ります。

また、FDC の活動として、ウォーターフロント地区や都心部の水辺の活性化について、市民や地域並びに企業の参加を進め、賑わいづくり、環境デザイン、エリアマネジメントの各視点から事業組成に向け取り組みます。

¹⁷ 情報通信技術を活用して社会インフラを効率的に運営（＝スマート化）することによって、人々がより快適で便利に暮らすことが可能になる環境配慮型都市のこと。

¹⁸ 高齢者が介護が必要になってもできるだけ地域で安全・安心に暮らしていくために、医療・介護・予防・住まい・生活支援を一体的に提供する仕組み

福岡を次のステージに！

